触（ふ）れて、識（し）る。

文化財の取扱い方展

今回の文化財展は、家でも見かける身近な文化財資料や美術品の簡単な取扱い方をテーマにしました。
「掛軸」では正しい掛け方と仕舞い方を、「茶碗」では茶碗の入っていた箱の紐の正しい結び方を、「古本」では、和装本の切れた綴り紐の補修の仕方を、「石碑」では内容に何が書いてあるかを知る手掛かりを掲載しました※。
今回の文化財展を通して、身近にある多様な文化財資料や美術品を傷つけず、正しく鑑賞したり、研究の対象として取扱えるようになるきっかけとなれば幸いです。
また、「土器の取扱い方－整理作業の流れ」に併せて、平成３０年度柏原鳥ノ上地区発掘調査における成果もご紹介します。
こちらも、ぜひ、ご覧下さい。

平成３１年３月
狭山市教育委員会（主管：社会教育課）

※本物の博物館資料を用いた実践・文化財取扱い講習会の内容を、解り易くまとめました。

平成 30 年度文化財展

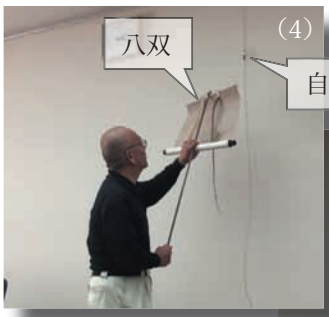
3/9（土）～17（日）

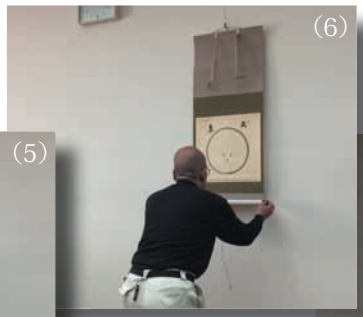
於：狭山市立博物館
狭山市稲荷山 1-23-1

掛軸の取扱い方

～箱から取り出し掛けるには～

（1）収納されている箱を開けます。衝撃を与えないようにするため、ふたを少し手前から奥へずらし、そのあとに上方向へ開けるようにします。その後、軸を箱から出します。
（2）巻緒をほどくときは、軸を回転させず、紐を回して静かに解きます。解き終わったら掛緒の一方に寄せ、軸を台の上又は畳の上に置きます。
（3）矢筈を掛緒に掛け、軸を 10 センチメートル程開き、風帯を伸ばし整えます。

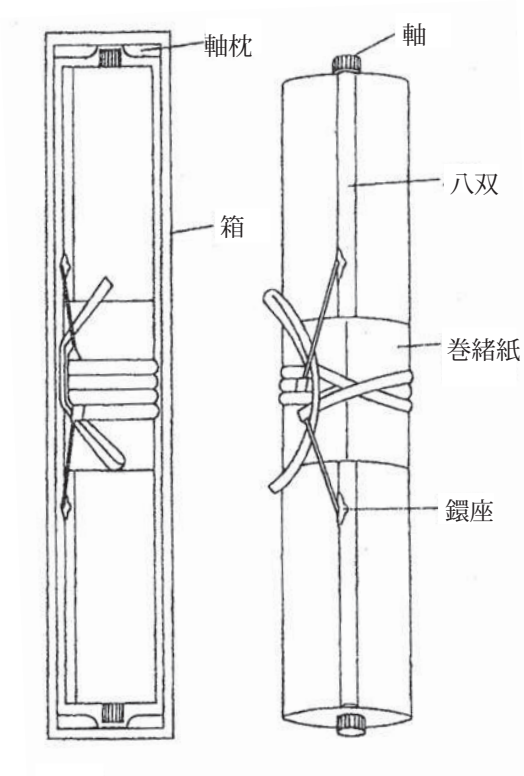




（4）片方の手で矢筈を操り掛緒を伸ばし、八双側を支え、もう片方の手でまだ開いていない軸本体と矢筈の軸を写真の様に支え、静かに自在（軸を掛けるフック）まで移動します。
（5）自在に掛緒を掛けます。
（6）軸を支える手を緩め、軸が自在に固定されたことを確認した後、両手で軸端を持って、まだ 10 センチメートルほどしか開いていない軸を静かに開きます。
（7）最後まで両手を添えて開きます。

（8）片づける時は、（6）（5）（4）（3）（2）（1）と遡っていきます。風帯は、軸に巻き込まず、八双と平行になるように折り曲げて収納します。

（9）巻緒紙がついている場合があります。巻緒を軸に巻く前に八双にかけるような形で巻き込みます。



(10) 正しく収納したときは、図の様になります。

参考・出典：博物館実務ビデオ講座　美術工芸品の取扱い方（株式会社　丹青社）

掛軸の取扱い方

茶碗の取扱い方

～箱入り茶碗と箱のひもの結び方～

箱物のひもは脆弱です。ひもの先を引っ張らないようにしましょう。箱を運ぶときは、箱の上下と自分の体の三点で支えるようにします。

中の茶碗を取り扱うときは、机の上など安定した場所で触りましょう。机に両ひじをつける等、自分の体を資料にあわせましょう。そうすることで、万が一落としてしまった時の被害を小さくすることが出来ます。

外箱のひもを結ぶ～四方左掛け～

①箱の左上に輪を作り引っかけます。

②手前にあるひもを輪の中へ通し、右上に出します。

③右側にあるひもも同様に輪に通し、左下に出します。

④左下に出したひもで輪を作ります。

⑤④で作った輪は、最終的に右側に来ます。

⑥右上のひもを、⑤の輪に上から引っかけます。

⑦巻きつけたひもで輪を作り、下からくぐらせます。

⑧形を整えたら出来上がりです。

茶碗の取扱い方

古本の取扱い方

～和綴じ本の種類と修繕の方法～

古本の種類

巻子本

巻子本（かんすぼん）
　絵巻物等がこの形態にあたります。
　紙を横に継いで　巻いたものです。

折本

折本（おりほん）
　巻子本を同じ幅に折りたたんだ、お経に多い形です。

胡蝶装（こちょうそう）
　紙を、字が書かれている面を表にして折り、
　折り目の部分でのり付けしたものです。

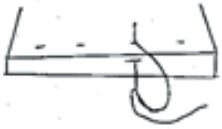
線装本

線装本（せんそうほん）
　いわゆる袋とじです。のりではなく糸で紙を綴じた
　もので、現在のノートが一番近い形をしています。

列帖装（れつじょうそう）
　紙を数枚重ねて谷折りにした「折」を、
　いくつも　糸で綴じていく形です。

和綴じ本を綴じる方法「四つ目綴じ」

①針は表紙の下の紙から入れます。



②背表紙に糸を巻きつけます。

③隣の穴も同様に綴じます。

④両端は本の天地も綴じます。

糸が切れた和綴じ本

⑤綴じ忘れがないか確認します。

⑥綴じた糸に針をくぐらせ出来た輪に
　針を通し、糸の処理をします。

板碑の取扱い方

～狭山市に多く残る板碑とは～

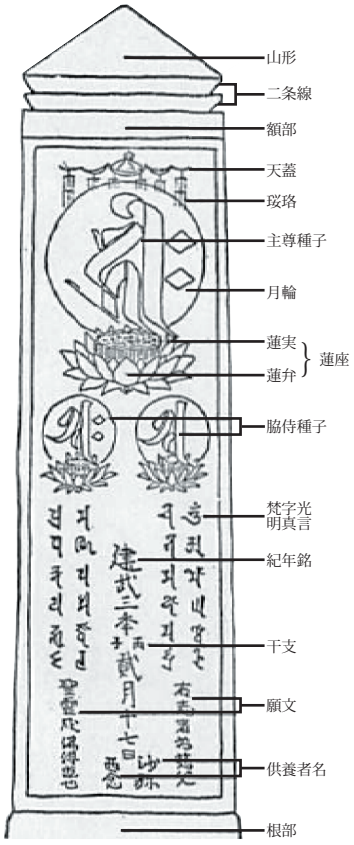
狭山市内には「板碑」とよばれる石碑が数多く存在しています。

板碑とは供養塔のことで、死者の供養はもちろんのこと、生前に死後の冥福を祈る目的でも造られました。

中央上部に仏尊を象徴する梵字(種子)が刻まれ、下部には真言や建立年月日等が刻まれています。

１３世紀から１６世紀にかけて数多く造られましたが、その後は衰退していきました。

武蔵地方の板碑は、秩父で多く産出される青石で造られていたことから、「青石塔婆」とも呼ばれています。



出典：庚申懇話会「日本石仏事典」(雄山閣出版)

板碑を家の中に置く場合、綿を薄葉紙で包んだ「ふとん」をつくり、その上に板碑を置くようにします。

移動させるときは、上に１枚ふとんを乗せてくるみ、台車等で運ぶようにします。

鎌倉時代	建久	けんきゅう	1190～1199
	正治	しょうじ	1199～1201
	建仁	けんにん	1201～1204
	元久	げんきゅう	1204～1206
	建永	けんえい	1206～1207
	承元	じょうげん	1207～1211
	建暦	けんりゃく	1211～1213
	建保	けんぽう	1213～1219
	承久	じょうきゅう	1219～1222
	貞応	じょうおう	1222～1224
	元仁	げんにん	1224～1225
	嘉禄	かろく	1225～1227
	安貞	あんてい	1227～1229
	寛喜	かんき	1229～1232
	貞永	じょうえい	1232～1233
	天福	てんぷく	1233～1234
	文暦	ぶんりゃく	1234～1235
	嘉禎	かてい	1235～1238
	暦仁	りゃくにん	1238～1239
	延応	えんおう	1239～1240
	仁治	にんじ	1240～1243
	寛元	かんげん	1243～1247
	宝治	ほうじ	1247～1249
	建長	けんちょう	1249～1256
	康元	こうげん	1256～1257
	正嘉	しょうか	1257～1259
	正元	しょうげん	1259～1260
	文応	ぶんおう	1260～1261
	弘長	こうちょう	1261～1264
	文永	ぶんえい	1264～1275
	建治	けんじ	1275～1278
	弘安	こうあん	1278～1288
	正応	しょうおう	1288～1293
	永仁	えいじん	1293～1299
	正安	しょうあん	1299～1302
	乾元	けんげん	1302～1303
	嘉元	かげん	1303～1306
	徳治	とくじ	1306～1308
	延慶	えんきょう	1308～1311
	応長	おうちょう	1311～1312
	正和	しょうわ	1312～1317
	文保	ぶんぽう	1317～1319
	元応	げんおう	1319～1321
	元亨	げんこう	1321～1324
	正中	しょうちゅう	1324～1326
	嘉暦	かりゃく	1326～1329
鎌倉	【北朝】		
	元徳	げんとく	1329～1332
	正慶	しょうきょう	1332～1333
室町時代	建武	けんむ	1334～1338
	暦応	りゃくおう	1338～1342
	康永	こうえい	1342～1345
	貞和	じょうわ	1345～1350
	観応	かんのう	1350～1352
室町時代	文和	ぶんな	1352～1356
	延文	えんぶん	1356～1361
	康安	こうあん	1361～1362
	貞治	じょうじ	1362～1368
	応安	おうあん	1368～1375
	永和	えいわ	1375～1379
	康暦	こうりゃく	1379～1381
	永徳	えいとく	1381～1384
	至徳	しとく	1384～1387
	嘉慶	かきょう	1387～1389
	康応	こうおう	1389～1390
南北朝時代	【南朝】		
	元徳	げんとく	1329～1331
	元弘	げんこう	1331～1334
	建武	けんむ	1334～1336
	延元	えんげん	1336～1340
	興国	こうこく	1340～1346
	正平	しょうへい	1346～1370
	建徳	けんとく	1370～1372
	文中	ぶんちゅう	1372～1375
	天授	てんじゅ	1375～1381
	弘和	こうわ	1381～1384
	元中	げんちゅう	1384～1392
室町時代	明徳	めいとく	1390～1394
	応永	おうえい	1394～1428
	正長	しょうちょう	1428～1429
	永享	えいきょう	1429～1441
	嘉吉	かきつ	1441～1444
	文安	ぶんあん	1444～1449
	宝徳	ほうとく	1449～1452
	享徳	きょうとく	1452～1455
	康正	こうしょう	1455～1457
	長禄	ちょうろく	1457～1460
	寛正	かんしょう	1460～1466
	文正	ぶんしょう	1466～1467
	応仁	おうにん	1467～1469
	文明	ぶんめい	1469～1487
	長享	ちょうきょう	1487～1489
	延徳	えんとく	1489～1492
	明応	めいおう	1492～1501
	文亀	ぶんき	1501～1504
	永正	えいしょう	1504～1521
	大永	たいえい	1521～1528
	享禄	きょうろく	1528～1532
	天文	てんぶん	1532～1555
	弘治	こうじ	1555～1558
	永禄	えいろく	1558～1570
	元亀	げんき	1570～1573
安土桃山	天正	てんしょう	1573～1592
	文禄	ぶんろく	1592～1596
	慶長	けいちょう	1596～1615

年号一覧

※板碑が多く造られた時代の年号を掲載

如来(にょらい)：仏教において、真理(如)に随ってきた、真如より現れ出た者。			
	アーク		バン
	大日如来【胎蔵界】(だいにちにょらい)		大日如来【金剛界】(だいにちにょらい)
	この世の万物・現象は大日如来そのものであるとされる。胎蔵界は大日如来の理徳の面を表す。		大日如来の理徳の面を表す胎蔵界に対し、金剛界は智徳の面を表している。
	キリーク		バク
	阿弥陀如来(あみだにょらい)		釈迦如来(しゃかにょらい)
	人々を極楽浄土に迎える仏。		仏教の開祖である釈迦(ゴーダマ・シッダールタ)を仏として敬う呼び名。
	ベイ		ウン
	薬師如来(やくしにょらい)		阿閦如来(あしゅくにょらい)
	人々の病気を取り去り幸福をもたらす仏。		大円鏡智(大きな円形鏡に映るようにすべてを見通す智慧)という智慧の仏。
	タラーク		ボロン
	宝生如来(ほうしょうにょらい)		一字金輪(いちじきんりん)
	のばした五指の間から如意宝珠を降ろし人々の願いを成就させる仏。		一字金輪王、一字金輪仏頂とも。限りない智慧を象徴する最勝最尊の仏。
菩薩(ぼさつ)：仏教において菩提(悟り)を求める衆生。			
	キリーク		ウン
	千手観音(せんじゅかんのん)		馬頭観音(ばとうかんのん)
	くわしくは千手千眼観音という。一千の眼で人々の苦しみや願いを見通さず、一千の手であらゆる人々を救う。		病気や天災、争乱など一切の障害を除く。
	サ		サ
	十一面観音(じゅういちめんかんのん)		聖観音(しょうかんのん)
	敵を破る、虫害や疫病を除くなど10種の勝利をもたらすという。		もとは正法明如来(しょうほうみょうにょらい)という仏。衆生の救済のため人に近い菩薩となった。
	キリーク		ボ
	如意輪観音(にょいりんかんのん)		准胝観音(じゅんていかんのん)
	どこにでも速やかに現れ如意宝珠をもって願いを叶えるほか、福徳と智慧、慈悲の心を増すという。		准胝仏母(じゅんていぶっも)、七倶胝仏母(しちぐていぶっも)とも。家内・安産・夫婦和合など特に女性の願いを反映している。
	サ		タラーク
	不空羂索観音(ふくうけんじゃくかんのん)		虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)
	この菩薩の真言を唱えれば、この世で20種の利益を、臨終に際して8種の利益を得るという。		果てのない大空のように無量の福徳・智慧をそなえて人々の願いを成就させる。
	カ		マン
	地蔵菩薩(じぞうぼさつ)		文殊菩薩(もんじゅぼさつ)
	釈迦如来の入滅から弥勒菩薩が未来に出現するまでの間、この地にあって人々を救う。		智慧の菩薩として、学問成就などの祈願に参拝する人が多い。
	アン		エ
	普賢菩薩(ふげんぼさつ)		普賢延命菩薩(ふげんえんめいぼさつ)
	大乗仏教の経典「法華経」には女人成仏が説かれていることから、特に女性の守護尊とされてきた。		民衆で息災延命を祈る普賢延命法での本尊とされる。
	サク		バン
	大勢至菩薩(だいせいしぼさつ)		金剛薩埵(こんごうさった)
	智慧によって人々を浄土へと迎え入れる。		あらゆる人を発心させて仏の智慧を開かせる菩薩として、普賢菩薩と同体異名とされる。
	ユ		
	弥勒菩薩(みろくぼさつ)		
	次の生涯に仏となることが決まっている菩薩で、現在仏の入滅後56億7千万年後にこの世に現れ人々を救済する。		

梵字一覧　※主要なもの

板碑の取扱い方

①　文化財を取り扱う前に・・・

○身だしなみに気をつける

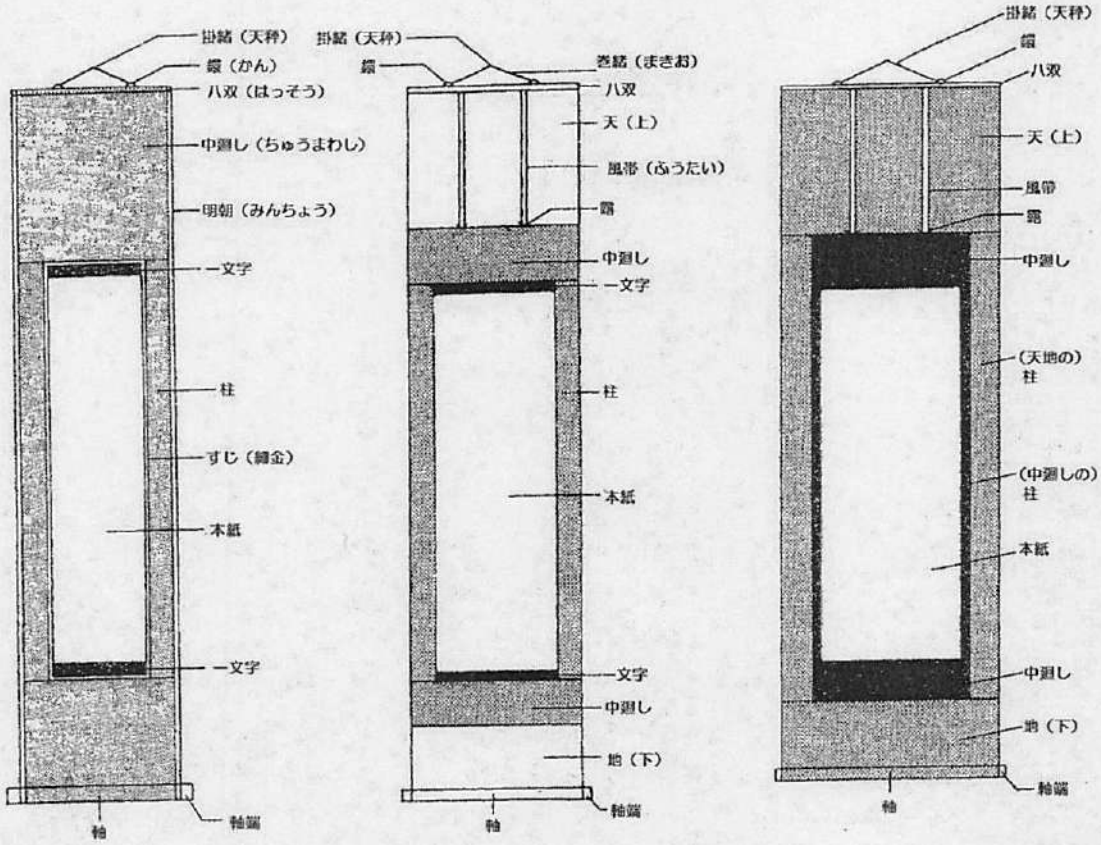
・服装：動きやすい服装を選びましょう。袖（そで）や裾（すそ）が妨げにならないものを選び、金具が付いたものは避けましょう。靴も動きやすいものを選びましょう。
・髪・爪：長い髪は束ね、爪はあらかじめ短く切っておきましょう。
・アクセサリー：時計やネクタイピン、イヤリング、ネックレスなどは外してから作業しましょう。ネクタイは外すかシャツの中に入れておきましょう。

○資料を取り扱うときには

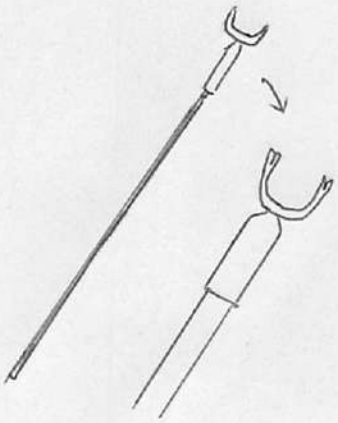
・急がず、慌てないように心がけましょう。
・必ず両手で持ち、突起などの弱い部分は持たないようにしましょう。
・持ち上げるときは高く上げすぎないようにしましょう。
・大きいものや重いものは一人で扱わないようにしましょう。
・触っただけで壊れそうなものは触るのをやめましょう。
　→このような資料を移動させたいときは、専門業者へ依頼する、箱に入っているならティッシュや綿などの緩衝材を資料にあて、箱のまま動かすなどして対処しましょう。

②　掛軸の取り扱い方

○掛軸の装具の種類



文人表具　　大和表具　　仏画表具

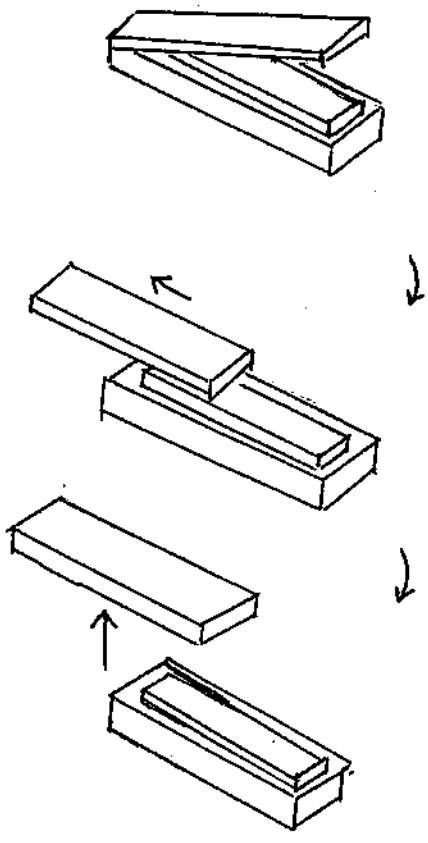


Step1 箱を開ける

1　ふたの片側を少し持ち上げる

2　持ち上げた側と反対側へ、ふたを少しずらす

3　ふたを上へ持ち上げる



Step2 掛軸を箱から取り出す

掛軸が布にくるまれている場合

→布ごと取り出す

掛軸をくるむ布がない場合

→掛軸の軸の部分をつまんで取り出す

Step3 掛軸をかける

1　掛軸をかけるフック、掛軸自体が丈夫であるかチェックする（フックが緩んでいないか、巻緒のひもは傷んでいないかなど）

2　巻緒をゆっくりはずし、掛緒の左右いずれかの巻緒を隅まですらす

3　台や机など平らな場所で、風帯が出てくるまでひろげ、風帯を伸ばす

4　本紙が出てこないところ（上側の一文字のあたり）までひろげる

5　やはずを掛緒に掛け、利き手でやはずを、反対の手で掛軸を持つ

Step4 掛軸を取り外す

1　利き手の届く範囲にあらかじめやはずを置いておく

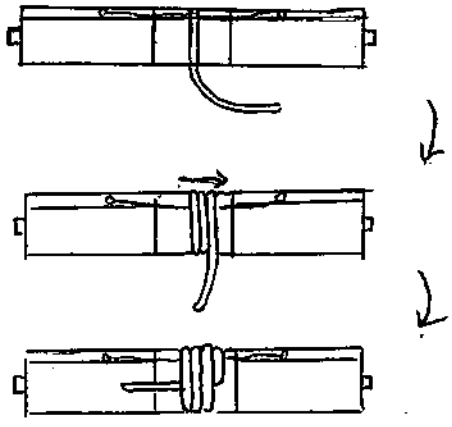
2　両軸を持ち、本紙が見えなくなるまで、下から上へ向かって巻いていく

3　利き手と反対の手で掛軸を押さえながら、やはずを使いフックから掛軸を外す

4　風帯の所まで巻き上げ、台や机など平らな場所へ置き、やはずを外す

5　風帯をたたみ、巻き上げる

6　巻緒を自分の側へ向かって巻き始め、右側に向かって巻いていく

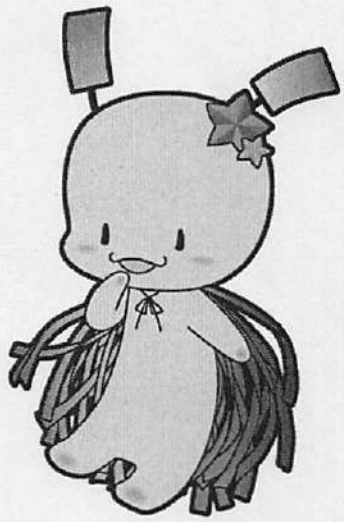


③　茶碗（箱入り）の取り扱い方

○箱ものを取り扱う際の注意点

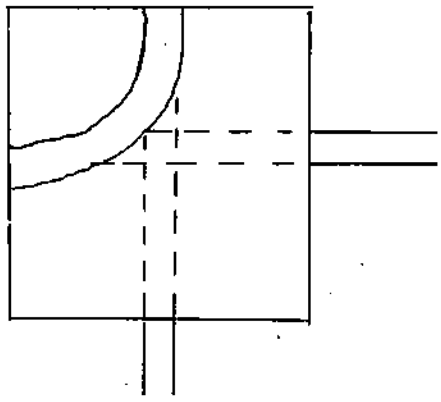
・ひもは脆弱！ひもだけで持たない、ひもの先を引っ張らない
・持ち運ぶ時は、箱の上下と自分の体の三点で支える
・中に布などがある場合、状態が危ないなら無理に持ち上げない
・茶碗などを取り扱うときは、両ひじを机につけるなどして自分が資料に合わせるようにする。

ひもの結び方は何種類かあるけど、今回は結び方を一つ習得してみよう！

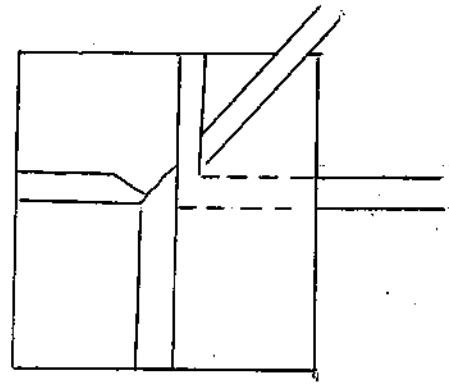


○ひもの結び方～四方左掛け～

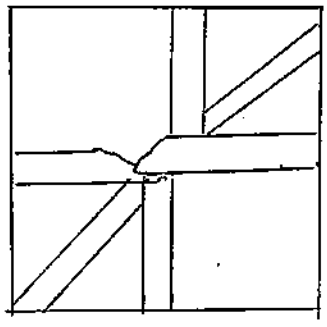
①箱の左上に輪を作り掛ける。



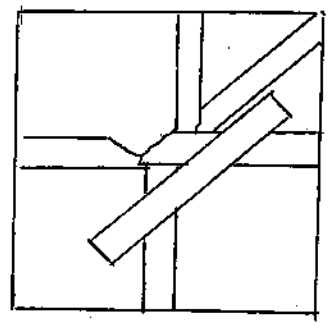
②下側（自分に一番近い位置）にあるひもを輪の上から輪の中へ通し、右上に出す。



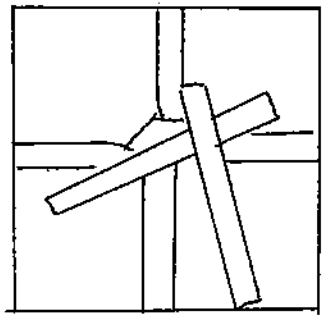
③右手側にあるひもを輪の上から輪の中へ通し、左下に出す。



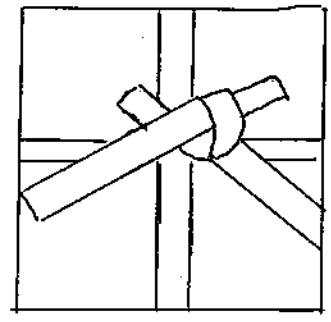
④左下に出したひもを、右上に輪を作るようにして折る。



⑤右上に出したひもを④で作った輪の上から回し、中ほどを左上にくぐらせる。



⑥左右均等になるよう形を整えて完成。



資料調査カード	
記入日	
所在地	
連絡先	
自由記入欄 （形状・材質・ 寸法・法量・ その他）	

※判明する範囲で記入をお願いします。
※記入後、資料カード全体が分かる写真を撮影いただき、文化財の写真とともに社会教育課までメール等で提出してください。

社会教育課メールアドレス　shakyo@city.sayama.saitama.jp
※添付ファイルサイズの上限は2MBです。

狭山市教育委員会　社会教育課

①　文化財を取り扱う前に・・・

○身だしなみに気をつける

・服装：動きやすい服装を選びましょう。袖（そで）や裾（すそ）が妨げにならないものを選び、金具が付いたものは避けましょう。靴も動きやすいものを選びましょう。
・髪・爪：長い髪は束ね、爪はあらかじめ短く切っておきましょう。
・アクセサリー：時計やネクタイピン、イヤリング、ネックレスなどは外してから作業しましょう。ネクタイは外すかシャツの中に入れておきましょう。

○資料を取り扱うときには

・急がず、慌てないように心がけましょう。
・必ず両手で持ち、突起などの弱い部分は持たないようにしましょう。
・持ち上げるときは高く上げすぎないようにしましょう。
・大きいものや重いものは一人で扱わないようにしましょう。
・触っただけで壊れそうなものは触るのをやめましょう。
　→このような資料を移動させたいときは、専門業者へ依頼する、箱に入っているならティッシュや綿などの緩衝材を資料にあて、箱のまま動かすなどして対処しましょう。

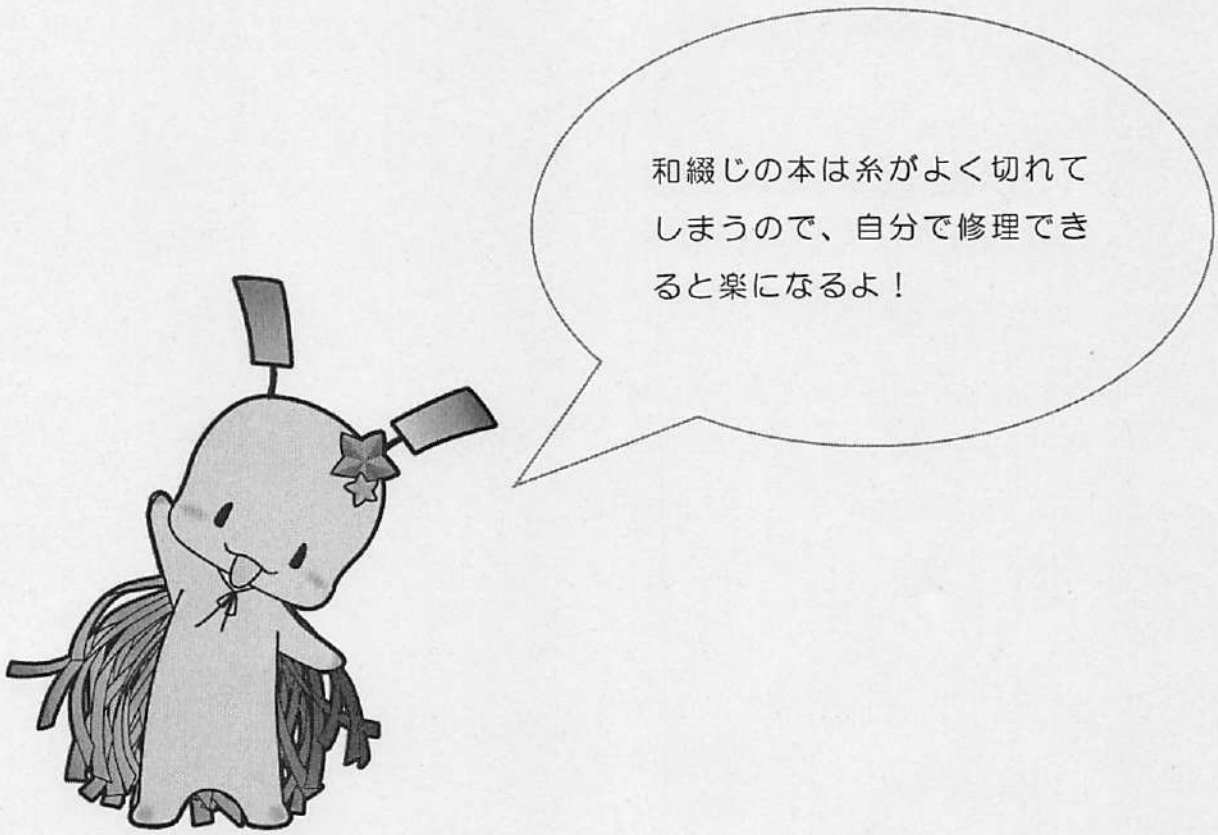
②　和綴じの古本

○古本を糸で綴じる（四つ目綴じ）前の準備

使用する材料・道具

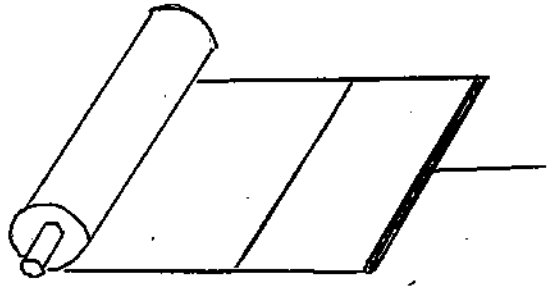
糸（刺しゅう糸などで可）、針（糸の太さなどに応じて自分が扱いやすいものを選ぶ）

・新しく綴じるための糸の長さは、およそ本の縦の長さの４倍が目安
・糸の長さを決めたら、針に糸を通して大き目の玉結びをつくる

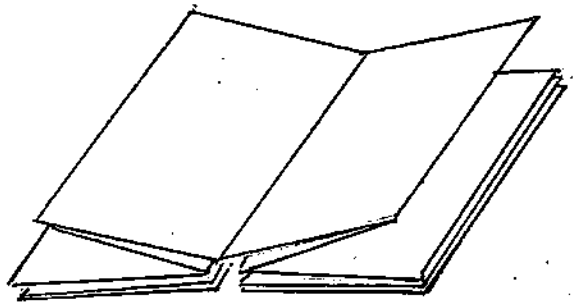


○古本のいろいろ

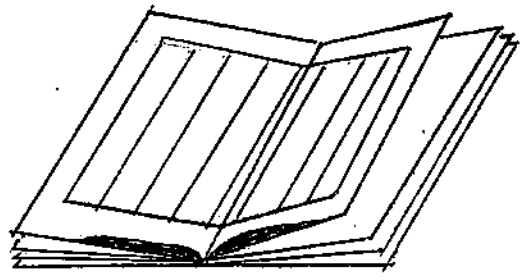
①巻子本（かんすぼん）
料紙を横に継いだ形態のもの。書物の装丁としては最も古い簡便な形態。



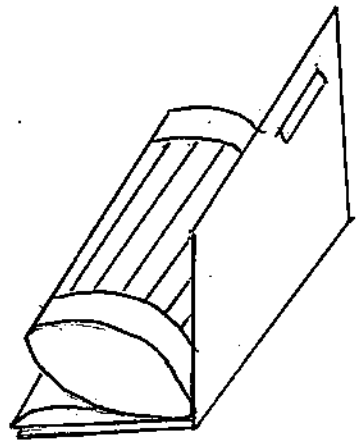
②折本（おりぼん）
帖装本（じょうそうぼん）とも。巻物を同じ幅に折りたたみ、前後に表紙を付けたもの。



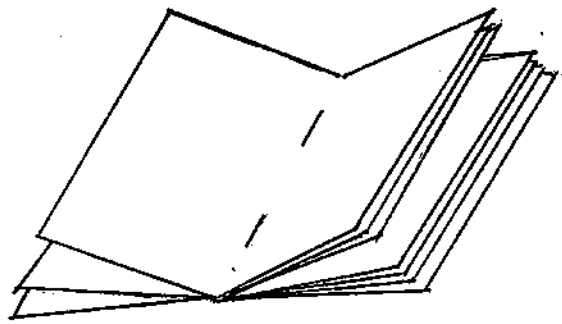
③胡蝶装（こちょうそう）
粘葉装（でっちょうそう）とも。紙を１枚ずつ二つ折りにし、それを何枚も重ね、折り目の部分でのり付けしたもの。



④綫装本（せんそうぼん）
いわゆる袋綴じ。のりで紙を繋ぐのではなく、こよりと糸で綴じたもの。表紙は前後別々につける。

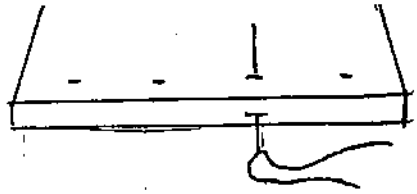


⑤列帖装（れつじょうそう）
紙を数枚重ねて谷折りにし、折り目に綴じ穴をあけて綴じ合わせたものを、次々と綴じ繋いでいくもの。

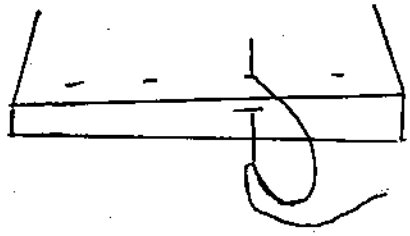


○四つ目綴じ

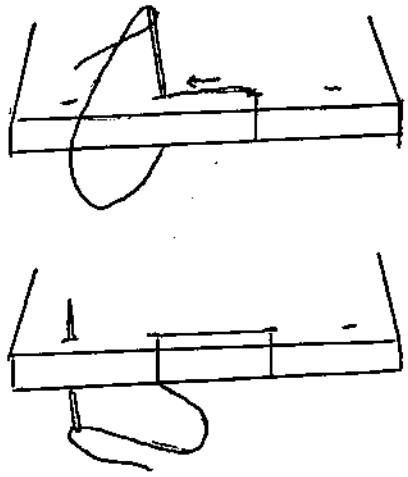
1　四つ穴のうちの一つを選び、本紙の途中から針をくぐらせ表紙側に針を出す



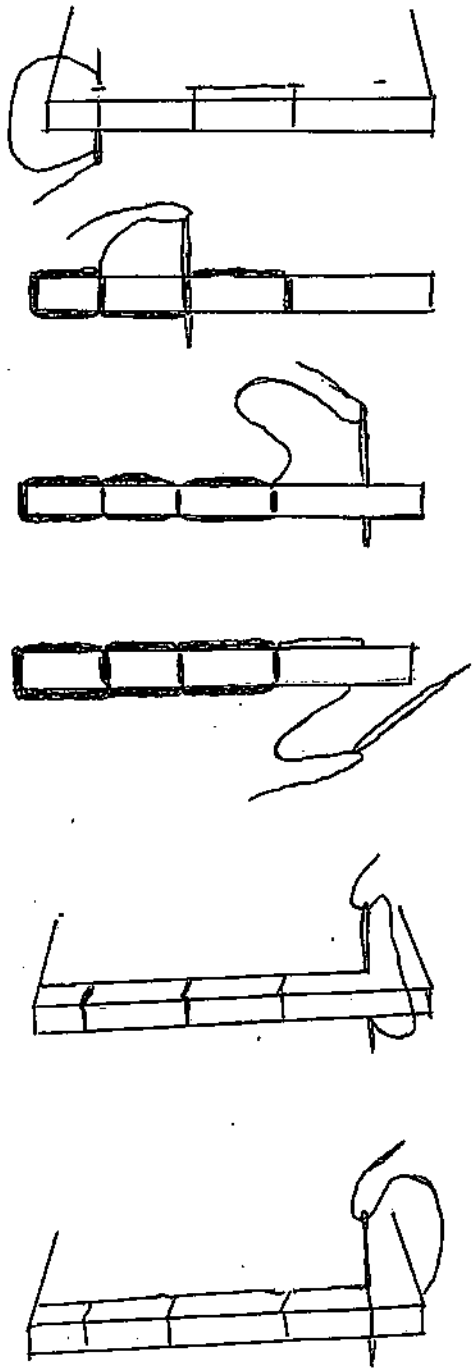
2　背表紙に糸を巻きつけ、同じ綴じ穴の裏表紙側から表紙側へ針を出す



3　隣の綴じ穴に移動し同様に綴じる（移動する時、表紙側から裏表紙側へ針をくぐらせる）

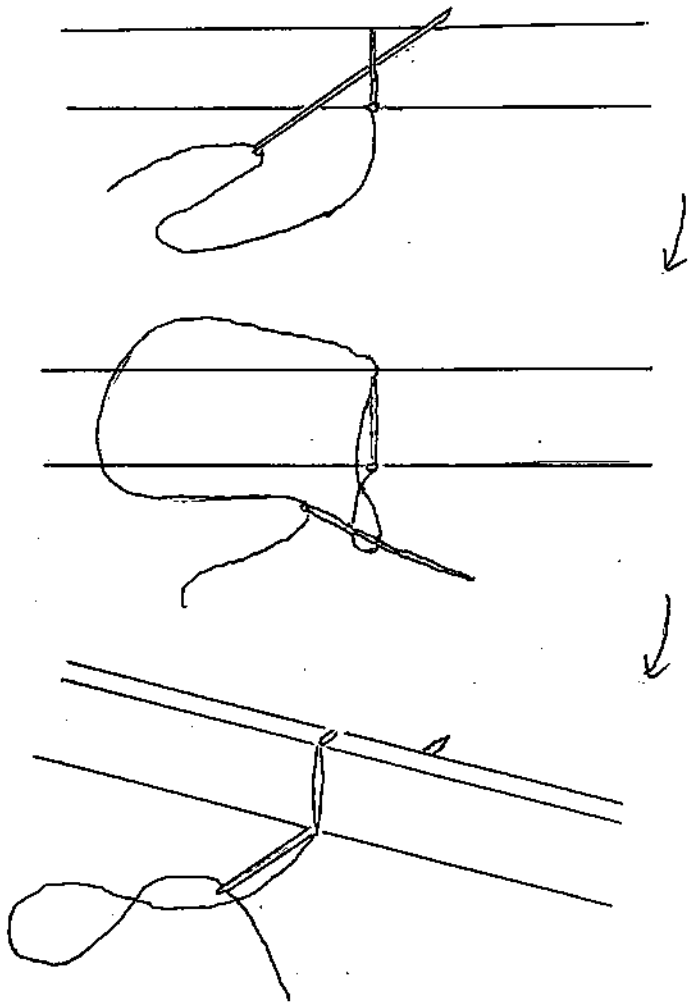


４　両端の綴じ穴を綴じるときは、本の天地も綴じる



5　綴じ忘れがないか確認し、糸の処理をする

6　糸の処理は、綴じ穴から交差する２本の綴じ糸に針をくぐらせてできた糸の輪に針を通し、結び目が見えなくなるように糸を反対側へ通すようにして行う



③　石碑・墓石

○狭山市内に多く残る「青石塔婆」

・「塔婆」は「板碑」とも呼ばれ、中でも武蔵地方の塔婆は秩父で産出される青石で造られていたことから「青石塔婆」といわれる
・板碑とは供養塔のこと
・１３世紀から１６世紀にかけて数多く造られた

○定期的に記録をとる必要性

・定期的に記録をとっていれば、現状復帰ができる
　→例）台風で倒れたとき、住宅建築などで動かしたとき・・・
・必要な措置や対策をとることができる

○梵字一覧

如来（にょらい）：仏教において、真理（如）に随ってきた、真如より現れ出た者。			
	アーク 大日如来【胎蔵界】（だいにちにょらい） この世の万物・現象は大日如来そのものであるとされる。胎蔵界は大日如来の理徳の面を表す。		バン 大日如来【金剛界】（だいにちにょらい） 大日如来の理徳の面を表す胎蔵界に対し、金剛界は智徳の面を表している。
	キリーク 阿弥陀如来（あみだにょらい） 人々を極楽浄土に迎える仏。		バク 釈迦如来（しゃかにょらい） 仏教の開祖である釈迦（ゴーダマ・シッダールタ）を仏として敬う呼び名。
	ベイ 薬師如来（やくしにょらい） 人々の病気を取り去り幸福をもたらす仏。		ウン 阿閦如来（あしゅくにょらい） 大円鏡智（大きな円形鏡に映るようにすべてを見通す智慧）という智慧の仏。
	タラーク 宝生如来（ほうしょうにょらい） のばした五指の間から如意宝珠を降らし人々の願いを成就させる仏。		ボロン 一字金輪（いちじきんりん） 一字金輪王、一字金輪仏頂とも。限りない智慧を象徴する最勝最尊の仏。
菩薩（ぼさつ）：仏教において菩提（悟り）を求める衆生。			
	キリーク 千手観音（せんじゅかんのん） くわしくは千手千眼観音という。一千の眼で人々の苦しみや願いを見逃さず、一千の手であらゆる人々を救う。		ウン 馬頭観音（ばとうかんのん） 病気や天災、争乱など一切の障害を除く。
	サ 十一面観音（じゅういちめんかんのん） 敵を破る、虫害や疫病を除くなど10種の勝利をもたらすという。		サ 聖観音（しょうかんのん） もとは正法明如来（しょうほうみょうにょらい）という仏。衆生の救済のため人に近い菩薩となった。
	キリーク 如意輪観音（にょいりんかんのん） どこにでも速やかに現れ如意宝珠をもって願いを叶えるほか、福徳と智慧、慈悲の心を増すという。		ボ 准胝観音（じゅんていかんのん） 准胝仏母（じゅんていぶつも）、七倶胝仏母（しちぐていぶつも）とも。求児・安産・夫婦和合など特に女性の願いを反映し
	サ 不空羂索観音（ふくうけんじゃくかんのん） この菩薩の真言を唱えれば、この世で20種の利益を、臨終に際して8種の利益を得るという。		タラーク 虚空蔵菩薩（こくうぞうぼさつ） 果てのない大空のように無量の福徳・智慧をそなえて人々の願いを成就させる。
	カ 地蔵菩薩（じぞうぼさつ） 釈迦如来の入滅から弥勒菩薩が未来に出現するまでの間、この地にあって人々を救う。		マン 文殊菩薩（もんじゅぼさつ） 智慧の菩薩として、学問成就などの祈願に参拝する人が多い。
	アン 普賢菩薩（ふげんぼさつ） 大乗仏教の経典『法華経』には女人成仏が説かれていることから、特に女性の守護尊とされてきた。		ユ 普賢延命菩薩（ふげんえんめいぼさつ） 密教で息災延命を祈る普賢延命法での本尊とされる。

	サク 大勢至菩薩（だいせいしぼさつ） 智慧によって人々を浄土へと迎え入れる。		バン 金剛薩埵（こんごうさった） あらゆる人を発心させて仏の智慧を開かせる菩薩として、普賢菩薩と同体異名とされる。
	ユ 弥勒菩薩（みろくぼさつ） 次の生涯に仏となることが決まっている菩薩で、現在仏の入滅後56億7千万年後にこの世に現れ人々を救済する。		
明王（みょうおう）：大日如来の名を受け、仏教に帰依しない衆生を帰依させようとする役割を担う。			
	カンマーン 不動明王（ふどうみょうおう） 明王の中でも最勝の尊で、大日如来が人々の悪心を調伏するために憤怒の姿で現れたもの。		ウン 降三世明王（ごうざんぜみょうおう） 過去・現在・未来の三世にわたって悪を退け、貪（欲望）・瞋（怒り）・痴（愚かさ）の3つの煩悩（三毒）を滅ぼす。
	ウン 軍荼利明王（ぐんだりみょうおう） 阿修羅や夜叉などの外敵から人々を守り、様々な障害を取り除く。		キリーク 大威徳明王（だいいとくみょうおう） とくに戦勝を祈願する大威徳法の本尊。
	ウン 金剛夜叉明王（こんごうやしゃみょうおう） この明王を本尊とする修法は、調伏や息災の秘法とされる。		ウン 愛染明王（あいぜんみょうおう） 敬愛（和合・親睦祈願）修法の本尊として祀られ、一般に縁結びや恋愛成就の明王とされる。
	ウン 烏枢沙摩明王（うすしまみょうおう） 穢れと悪を焼き滅ぼし、不浄を清浄に転じる。		マ 孔雀明王（くじゃくみょうおう） 毒蛇や毒薬などの災難・恐怖のほか、心の毒である三毒を除いて幸福をもたらす。
	ウン 大元帥明王（だいげんすいみょうおう） この明王を本尊とする大元帥法は鎮護国家・怨敵降伏の大法とされる。		
天部（てんぶ）：インドの古来の神が仏教に取り入れられたもの。			
	マ 大黒天（だいこくてん） 夜叉を従え全身に灰を塗る憤怒の神とされ、その激しい属性から戦勝祈願の神とされる。		ソ 弁財天（べんざいてん） その他の様々な神の属性が習合し、福神として信仰を集める。
	マ 摩利支天（まりしてん） 一切害されることのない隠形の神、不敗の軍神で、水難・火難・盗難などの災難から護る。		ガ 迦楼羅天（かるらてん） 龍を本尊とする請雨法に対し、止雨法の本尊とされる。
	ベイ 多聞天（たもんてん） 最強の軍神として、また悪者を調伏する本尊として様々な修法が行われる。		ヂリ 持国天（じこくてん） 仏法守護、国家鎮護の尊として篤い信仰を集める。
	ビー 増長天（ぞうじょうてん） 成長や豊穣を司る神。		ビー 広目天（こうもくてん） 悪人を罰して仏心を起こさせる神。

	ギャク 聖天（しょうでん） この尊に祈れば成就しない望みはないとされるが、効験の強大さに秘する代償も大きい。		ダ 荼枳尼天（だきにてん） 自在の通力をもって半年前に人の死を知り、その心臓を食らうとされる。日本では稲荷信仰と同一視される。
	イー 帝釈天（たいしゃくてん） 釈迦のをたすけ、仏法の守護にあたる神		エン 閻摩天（えんまてん） 人類最初の死者で、冥界に赴き死者の賞罰を司るようになった。
	ア 火天（かてん） 清浄さ、激しさ、焼尽と再生を司る。		バー 風天（ふうてん） 何ものにもとらわれない悟りの境涯を体現する釈迦の化身。
	バ 水天（すいてん） 如来の大悲、大智を司る。		ベイ 毘沙門天（びしゃもんてん） 怨敵調伏、財福、子宝、祈雨など多岐にわたる修法がある。
	ニリ 羅刹天（らせつてん） 煩悩を食らう如来の化身として観念される		イ 伊舎那天（いしゃなてん） 欲界第六天（他化自在天とも。他人の欲望を自在に受けて楽しむことができるところ）の主。
	ボラ 梵天（ぼんてん） 釈迦の悟りを称賛し、広く衆生に広めるよう説得した神。		ヒリ 地天（じてん） 大地の堅牢さ、万物を生育させる恵みを表す神。
	ア 日天（にってん） 正しくは日天子。太陽を神格化した神で、太陽を宮殿としている。		シャ 月天（がってん） 愛、快楽、光明、不死を司る。
	ウン 訶梨帝母（かりていも） 鬼子母神とも。安産、夫婦和合、怨敵調伏、勝訴、重い病の平癒祈願などの効験が観念される。		ナー 八大龍王（はちだいりゅうおう） 豊穣と厄病とを同時にもたらす水神。

※梵字とは神仏を一字で表す神聖な文字で、一つの梵字が複数の仏を表すものが多い。
悉曇（しったん）文字とも呼ばれる。

○年号一覧

鎌倉時代	建久	けんきゅう	1190～1199
	正治	しょうじ	1199～1201
	建仁	けんにん	1201～1204
	元久	げんきゅう	1204～1206
	建永	けんえい	1206～1207
	承元	じょうげん	1207～1211
	建暦	けんりゃく	1211～1213
	建保	けんぽう	1213～1219
	承久	じょうきゅう	1219～1222
	貞応	じょうおう	1222～1224
	元仁	げんにん	1224～1225
	嘉禄	かろく	1225～1227
	安貞	あんてい	1227～1229
	寛喜	かんぎ	1229～1232
	貞永	じょうえい	1232～1233
	天福	てんぷく	1233～1234
	文暦	ぶんりゃく	1234～1235
	嘉禎	かてい	1235～1238
	暦仁	りゃくにん	1238～1239
	延応	えんおう	1239～1240
	仁治	にんじ	1240～1243
	寛元	かんげん	1243～1247
	宝治	ほうじ	1247～1249
	建長	けんちょう	1249～1256
	康元	こうげん	1256～1257
	正嘉	しょうか	1257～1259
	正元	しょうげん	1259～1260
	文応	ぶんおう	1260～1261
	弘長	こうちょう	1261～1264
	文永	ぶんえい	1264～1275
	建治	けんじ	1275～1278
	弘安	こうあん	1278～1288
	正応	しょうおう	1288～1293
	永仁	えいじん	1293～1299
	正安	しょうあん	1299～1302
	乾元	けんげん	1302～1303
	嘉元	かげん	1303～1306
	徳治	とくじ	1306～1308
	延慶	えんきょう	1308～1311
	応長	おうちょう	1311～1312
	正和	しょうわ	1312～1317
	文保	ぶんぽう	1317～1319
	元応	げんおう	1319～1321
	元亨	げんこう	1321～1324
	正中	しょうちゅう	1324～1326
	嘉暦	かりゃく	1326～1329
鎌倉	【北朝】		
	元徳	げんとく	1329～1332
	正慶	しょうきょう	1332～1333
室町時代	建武	けんむ	1334～1338
	暦応	りゃくおう	1338～1342
	康永	こうえい	1342～1345
	貞和	じょうわ	1345～1350
	観応	かんのう	1350～1352

室町時代	文和	ぶんな	1352～1356
	延文	えんぶん	1356～1361
	康安	こうあん	1361～1362
	貞治	じょうじ	1362～1368
	応安	おうあん	1368～1375
	永和	えいわ	1375～1379
	康暦	こうりゃく	1379～1381
	永徳	えいとく	1381～1384
	至徳	しとく	1384～1387
	嘉慶	かきょう	1387～1389
	康応	こうおう	1389～1390
南北朝時代	【南朝】		
	元徳	げんとく	1329～1331
	元弘	げんこう	1331～1334
	建武	けんむ	1334～1336
	延元	えんげん	1336～1340
	興国	こうこく	1340～1346
	正平	しょうへい	1346～1370
	建徳	けんとく	1370～1372
	文中	ぶんちゅう	1372～1375
	天授	てんじゅ	1375～1381
	弘和	こうわ	1381～1384
	元中	げんちゅう	1384～1392
室町時代	明徳	めいとく	1390～1394
	応永	おうえい	1394～1428
	正長	しょうちょう	1428～1429
	永享	えいきょう	1429～1441
	嘉吉	かきつ	1441～1444
	文安	ぶんあん	1444～1449
	宝徳	ほうとく	1449～1452
	享徳	きょうとく	1452～1455
	康正	こうしょう	1455～1457
	長禄	ちょうろく	1457～1460
	寛正	かんしょう	1460～1466
	文正	ぶんしょう	1466～1467
	応仁	おうにん	1467～1469
戦国時代	文明	ぶんめい	1469～1487
	長享	ちょうきょう	1487～1489
	延徳	えんとく	1489～1492
	明応	めいおう	1492～1501
	文亀	ぶんき	1501～1504
	永正	えいしょう	1504～1521
	大永	たいえい	1521～1528
	享禄	きょうろく	1528～1532
	天文	てんぶん	1532～1555
	弘治	こうじ	1555～1558
	永禄	えいろく	1558～1570
	元亀	げんき	1570～1573
安土桃山	天正	てんしょう	1573～1592
	文禄	ぶんろく	1592～1596
	慶長	けいちょう	1596～1615

※青石塔婆が多く作られていた13世紀から16世紀にかけての年号を掲載。

資料調査カード	
記入日	
所在地	
連絡先	
自由記入欄 （形状・材質・ 寸法・法量・ その他）	

※判明する範囲で記入をお願いします。
※記入後、資料カード全体が分かる写真を撮影いただき、文化財の写真とともに社会教育課までメール等で提出してください。

社会教育課メールアドレス　shakyo@city.sayama.saitama.jp
※添付ファイルサイズの上限は2MBです。

狭山市教育委員会　社会教育課